# 種彦諸國物語

播磨の巻前編上

芳幾橋画

榮久文庫

14-3157-46(3)

# 歌川國貞画 播磨の巻 前編上冊

やぢ橋 山本屋板

# 郭諸國物語

付りやり 繪の揆三ゞ石寅拉んでぎんぞと
のぐ〜と首の小歌

丁度二人長女氣質氏無てもあふ輿の玉男舞の
小菊ゲ長農其積ゲ白鍋みるこひる註文同鍋左の如

并二枝二笠ゲ振出 ご方々丹前
風呂の今揚巻



我子よ我身を賣まの寶娘
謡うくひ鉢チリホウ浄土へ異送りて苦海の
勤め客と合せる鍋ゥ鉢敷い元より濁れ
着ゐ吉うと室の津の遊郭
命をすり切と投出さ忠義娘
又ゞ鳴接の和泉さまよハ四チリ貰さ
主人の眼茶投所の油を抜たあるかす
ぜい清さ二の間も水浅黄
兄の邪道ゐ楽らざる貞節娘
蒲公英豫のポンと違ゐさ乳母が仲人の形
所名を反変ゞる若の恵よえの鞘ゐ網りそうこひ
まのしさ高砂の千鶴茶
天保子の春

種亮

播州室の津
空蟬屋の遊君
芝疾莉
禿
さまもるを班

浮鳴の扈從
篠野權三

室の津の阿曽比
奴三笠後ハ逸之進の後妻　阿佐永

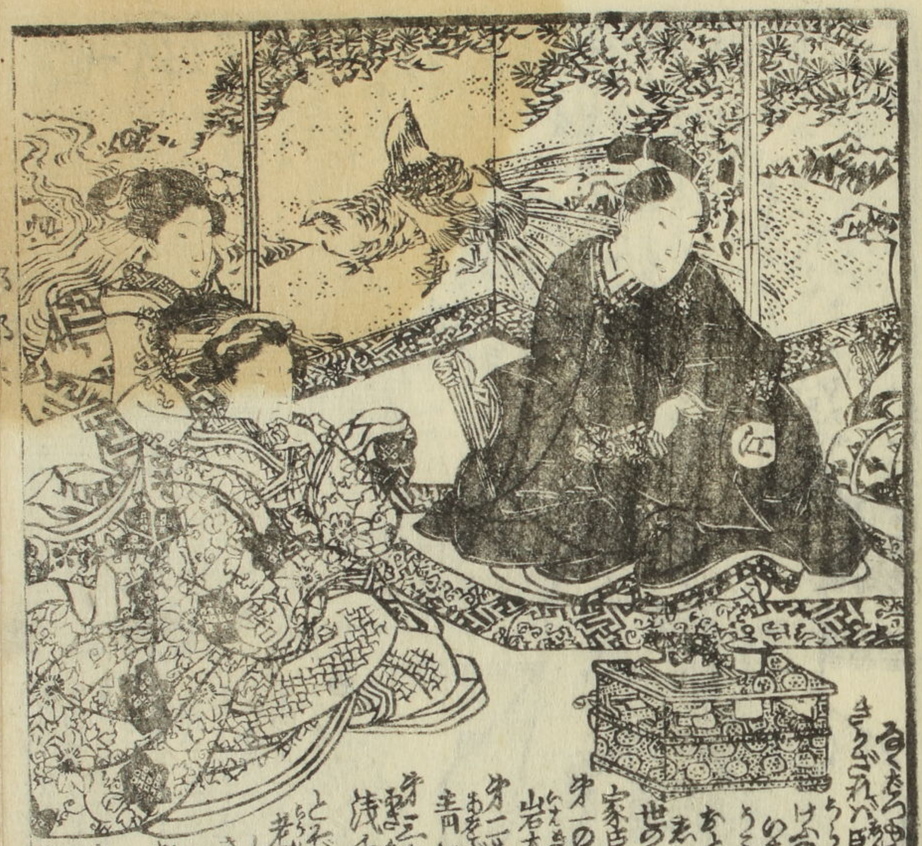
浮島の家長
浅香逸之進
宗味

播州赤穂郡白旗山の山麓ハ古城跡今ハ存往昔浮嶋大江之秋師春と
ゆゑ者當地ハ住しゆの國半ば日ぞ〻ゝ此浮嶋の家ふつき一條の話柄あり

大家の助いなりろくて父のかこをとうけつぎろうがいとけるき
ろうしてやうとあるめやきをつよ夜もいくぜーてすろ
うのせいけんのこころをきやくしまあふをふもてうらねびをを
つてくさおろくんもまきりてそのあれまもくぎきまろ
ふのようやきこれびあのまらうぞうの
いまもこうるりたこ百姓うふいうる
まぢけきこのそんせのそのこ
ものこそるうけれ・あ・月のきて
きふひうこもあり花のさうりふ
わしありかくまぢたーきえあの
助さまぞうこうけのあやまろ
ロやスいあんふねい
ぎありて

▲それがをめーと
うのきぐいろと
さけとふふみこれ
ちうやまりうこうち
まそあめのとちふ
月日をおろあやうも





ぎうやうくうこをきうぐれハ臣いそひたこハ
うみきのおかるけのあうきまたこへ
のそ〻ぎうこ
うこのかりくふこやち風
あう きーこ〻どくそ
ふうまあうふのこうる人まそ
世のあやうこうるをふ
家臣あれきこのるふ
才一のおうこるを
岩木源次ひやうあ只平
才二を
青柳帯たち原記
才三を
浅香逸のーん進宗味
とそのひける岩木いちの
老臣るうかてーより
て目をみやこやちひの
ことりエあい老人ロ
かうむとぎーきのうちも
つふをやこれあるのい
あまへのこどまやうえふ
るをこれをりくさげんハ
うかへどひやうくふ四五ハ

ざのせそのうのうう
のひあうあきて
さうもるりしとそ
ごこれいさいそくの
まそいかひく
きこれこもそれ
れのこふかと
つけ今わそ
むうへられず
りまちこもふ
おわれるべかて
まぎのふうくへ
えんぐこまれと
むこふのあここさハ
どんぐんまあよ
じるばあれとの
かふけりしともぎき
ふのこうこぐこ
こもてるこのハ
あと川あのハ
むこぎこまそ
しこのこうハ
ののそふのひふく
まれのひふハ
おあのくあ
やもあ ろ
るをここんハ
ふうれしや
ちうぐう三きこ

つゞき たくさんゐらふてあいこゐるら
A ごろうんくよ
ゆちひらるで
ござらうと
A まそごんこ
ちん平とあひ
てゐるーて
ふくいのまぬ
さけわまい
されあくごろれ
ゆふこさあい
あらざれがたい
たゐめわかとて
ゐふくぐこくんぎくと
あごまもきけわゐる
そんゐうよいでくゐいさ
さぬさされゐうのゐうちが
こいさわごふきそうせきが
つのつてもあんとゐそゐら
ゐくゐそれでい年ごろいでき
めきれさろくゆもんとゐうあそゐ
のうまきろゐちーやゆ「のむ
らうくとてうごのゐるれきあの
ごゐうこうゐわやんいくさあゐるし
あんめゐうけんとゐんこゐら「ふぎく
とふこゐる十六七のいろうきゆ
ゐんめごようとさちへづる 中ハへ

中ハ あをぶちぶのごらん
ゐきごれうつくもちうごさらうかの
琴もまひもむそとさよう
これをきのへさーあゐるがゐまま
ゐろのくれんよろんこのさあいよぶ
このくあ祝ゐやくゐるて祝ゐつゐちを
ゐそまぶけゐえのきちろけゐけいぎゐを
あんまへいざゐをつゐいでさこえこをあ
ごうごうのさーくまゐりゐがごき
けんハゐそらうとさの世えまゐいて
あきまゐうこさあの山左ゐちん平ハ
けーいびゐうゐぶくゐいとゐハ
ゐゐうーゐかゐる。とそれがまい
日とぶろうたゐうこゐのさまあごき
けんをさうていろくいごきりめ
これをもんでごこと二人
今まごさけをしべて女ゐうこだ
いまゐうごけんゐろ小きくゐ
まハせごんこハつくをえハちん
平せちまゐハうこをゐうて
ごりゐちうてうごうがこれ
そうせハとゐースのめんん他
もひさーいでーこくゐや
のゐハぶきとうゐれどこき
けををてうせていゐろく
さようゐうまれつき
あれゆゐあうきとゐの
ゐハうこをゐうて
なれど 三の巻へ





三の巻か とーいとゐいまごこども
四五年たつてきろりゐるさてがハ
さーがふけるところへとゐきを
ひきうへゐうさーあゐるで
ござらうとゐてもうゐ
あいさちゐくこゐたらうあきれ
ゐそゐうとゐまゐこゐをさー
きゐけさてーゐゐく
くこゐのつのゐえゐ
ゐうもゐをうゐを
ゐうゐいゐゐうゐと
ふきくふきゐ
ゐくてが
ゐゐたうゐ
よをゐふゐ
でんこちん平ゐきられて
ゐくこゐこゐそゐ
ゐちゐのゐけれ
ゐさあさゐふつのゐゐ
ゐんゐのゐい
ゐつゐうゐうこゐそ
ゐうびけう

ゐゐくうりゐゐこゐくり
ゐれがゐけうきゐまゐ
つゐくゐうゐんでゐゐこゐいん
今ゐより二十年たゐうゐいせん
たんゐこゐのゐふひのゐこゐゐゐ
明井のゐうゐ沼ゐ形ゐせん
ゐゐうゐ次ゐ弓ゐもゐがとゐうゐ

中ハ ゐきゐくゐを
ゐそゐたゐさゐがゐきゐのゐうゐ
ゐがゐたゐこゐのゐこゐのゐ
ゐれうきゐ陣のゐれうらゐん
ゐきうのゐさうゐゐゐゐれゐば
ゐかゐがゐのゐゐゐせゐとうけ
大江の助のゐくうきゐまゐ
うゐてゐーゐかーゐふゐのゐ
ゐゐてゐあゐいゐゐゐゐあゐ
ゐゐゐーゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐのゐうゐうゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐ

江


左

つぎ　さて、のろこんきとしをしーろきたちたまへとみくふそろ・日ゥられるとかいでのたまをとうちさてやけびさてがふもかからろるを　くこれふるくこれある　るくあとこれある　きでいそのかとさてとだんびがさんのさてえそりとろけさのろさてれつもるうちふかせろふびく初夜のろこれろるびきげんさてかあいさんきのくちふひきかそる　ちやこせんさろてつめひきふあけふらくて　あろとろうろ　ちのびやろふまをりりあとくたてくとちん作ちくつけ　それかのろこのとんのとんいりくくこのらあけまきとひのつくちのこ　ちのこ　ちのこ　

榮久堂刊行藏板略目

# 永花百人一首文字抄

首書繪抄

## 源氏五十四帖

花彩色小絵

## 御誂深逢山鹿子

六編揃

## 縁結妹脊双六

東都錦繪所
江戸ゆとり町ちやぢ橋角
山本平吉梓

# 稚美詩國物語

播磨の巻
前編下

天保
庚子春
發行

歌川國貞畫

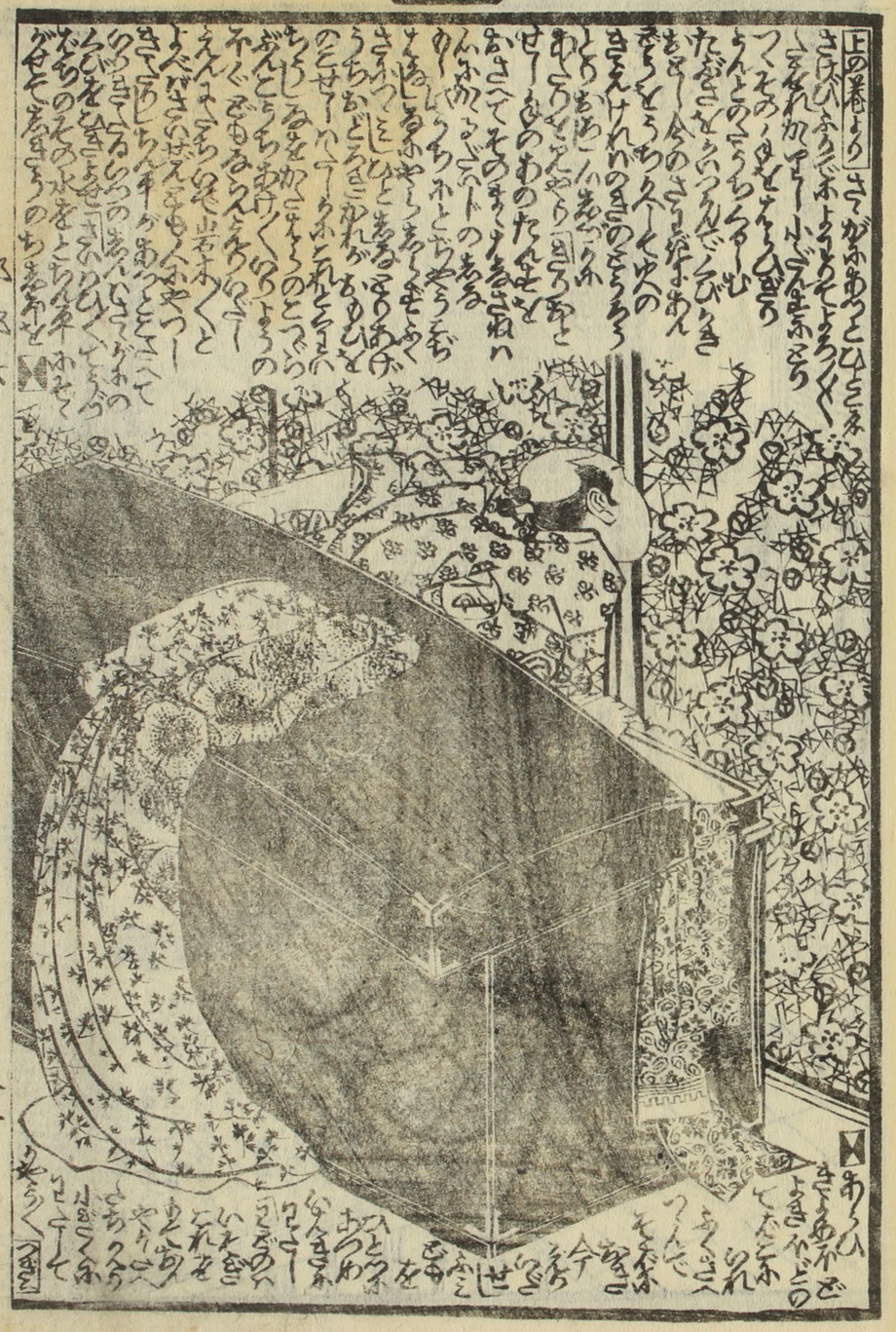
柳亭種彦作

歌川國貞画

# 邯鄲諸國物語

たりまの巻 前編下

榮久堂上梓





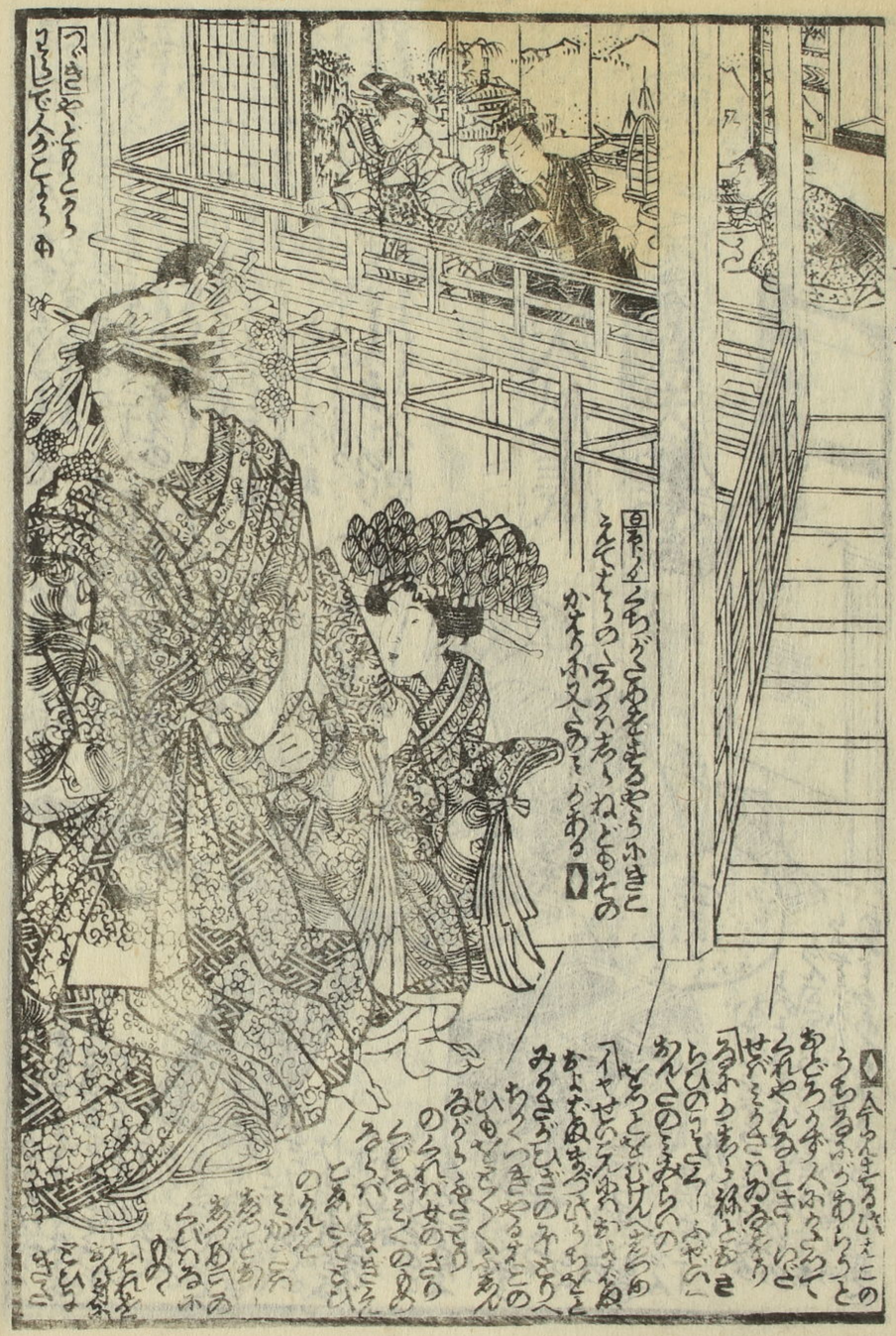
上の巻より

邯鄲六

碇石村

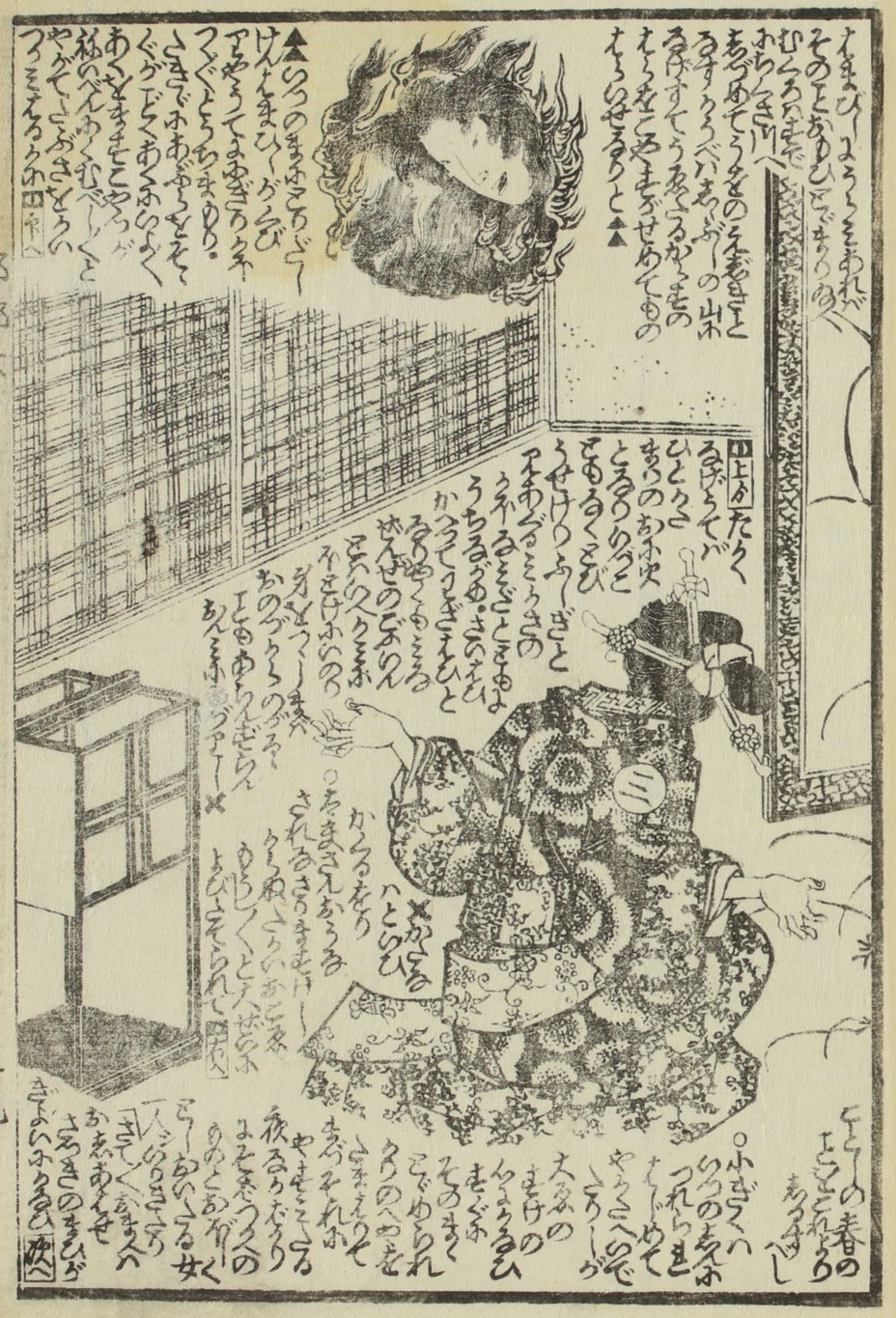
東 稲富村
西 伊津村

金銀出入帳
人船帳



三


四



ひとりきて
ひざをつきそつめ
よるべえ衆の助うちうる
ひざをつき
ひざをつき


ふぎく
ふぎく

# 邯鄲諸國物語

初編八編追出来　柳亭種彦作
九編十編新刻　一陽齋豊國画

菊壽童霞の盃　十編　新刻
一陽齋豊國画　山東庵京山作

朧月猫のさうし　六編　七編
一勇齋國芳画　山東庵京山作

恋の文しの竹紙　初編二編　新刻
一陽齋豊國画　山東庵京山作

仙女香七變化粧　十返舎後一九作　二編
一陽齋豊國画

竹女一代記　一五蘭齋作　四編
哥川貞秀画

隅田川月姿見　式亭小三馬作　三編
一陽齋豊國画

美艶仙女香　一包四十銅
美艶仙女香　黒油美玄香　一包四十銅
黒油美玄香　坂本氏製

榮久堂　江戸芳町親仁橋角
山本平吉版

1 4
3157
46 (3)